



## 『診断書を書くストレス』

昭和大学藤が丘病院 呼吸器外科 教授 鈴木 隆

## 『点滴センターが移設しました』

## 『平成22年度自衛消防隊消防操法技術訓練会を終えて』

## 『感染管理室より インフルエンザについて』

## 『公開講座を開催しました』

## 『医療安全推進週間』

## 『クリスマスコンサートを開催します』

## 巻頭言

## 『診断書を書くストレス』



呼吸器外科  
医長・教授 鈴木 隆

病院の中を歩いていたら患者さんのご家族らしい人たちが大声で話しているのが聞こえてきて笑ってしまいました。

「〇〇先生に診断書を書いてもらったけど医者の方って何だっってあんなに読みにくいんだ」それに答えて「それはカルテを他人にわかりにくくするために医学部では読みにくい文字の書き方を教えているからなのよ」という会話でした。これは全くの誤解で医学部ではそんな教育はしていません。私についていえば学生時代の講義が暗いところでスライドで行われ、さらに画像が次から次へ変わるので自分の文字を見ずにノートをとっていったためドンドン下手な文字になっていったと診断しています。私はこの下手な文字で診断書を書いて料金をいただくことに疑問を持っています。最近

手書きの診断書がへりましたが、私は文字を書くのに時間がかかりかつ悪筆なのでメンタルなストレスがあります。それが原因という訳でもないのですがたとえ上手な文字であっても診断書を書いてお金をとるのは医師の本来の業務ではないと考えています。医師は患者さんの病気の診断や治療のための勉強やその発展研究のために時間を割くのが本来の姿

であって、その周囲の仕事は医師以外のもっと適切なスタッフに任せるべきだと思います。私は患者さんに「診断書を依頼しないでください」と言っているのではなく日本の医療の現状に苦言を呈しているのです。「医師の本来の業務ではない」仕事は他にもあります。例えば「使い終わったあと注射器に残った麻薬の運搬と返却」、「抗癌薬の瓶のチェック」(すでに薬剤師のチェックが済んだもの)、「男性患者さんの導尿」などです。しかし近年病院勤務医の減少を目の当たりにして医師の負担を減らす動きが出てきました。少し前までは現在では信じられないことに採血周辺の全ての仕事(採血管に患者さんの名前を書いたラベルを貼り、患者さんから採血止血して、その採血管を検査室まで運ぶ作業)、同じ点滴にかかる全ての作業、検査結果のラベルをカルテに貼る作業なども若手医師のあたりまえの仕事でした。今は省略されたり、他職種の方々の業務になっています。私は以前はそれらの仕事を迅速にこなすことが優れた医師の条件と考えていましたがそれは間違いでした。本当に患者さんのことを考えるとこれらの仕事は別な適切なスタッフに任せて医師本来の仕事をするべきなのです。本筋ではない仕事を強制しては病院勤務医がいなくなってしまう。という訳で病院では医師の仕事の他職種への分業化が進んでいます。患者さんには多少違和感があるかもしれませんが、以上のような背景があるためです。にもかかわらず私は下手な文字で診断書を書く日々を送っています。



これまでの点滴センターが、本年9月より2階の旧眼科外来の場所に移設され、名称も腫瘍センターとして新たに発足しました。これまでと違い、診察ブースが2部屋設置されたこと、外来化学療法専用スペースとして独立したこと、ベッドが2床増床されたことが大きな改善点です。15床のうち10台はリクライニング機能付きの椅子で、終日空くことなく利用されています。これまでよりゆったりとしたスペースが確保され、耳を澄ますとかすかに BGM が聞こえてきます。ある患者さんは本を読みながら、他の患

者さんはじっと目を閉じて音楽に耳を傾けながらと、静かな雰囲気の中で治療を受けていただけるようになりました。既に“以前の場所より落ち着いて治療が受けられるようになった”という声も寄せられているようです。5名の看護師が定期的に声をかけ患者さんの体調を確認しています。午前中の治療が終了する昼過ぎには、午後からの患者さんが順番を待つ様子が見られるようになります。1日に約25人の患者さんが定期的にセンターで治療を受けています。今後は、診察ブースに医師が常駐し安全面により配慮したセンター作りを目指して行きたいと考えています。

(腫瘍センター長 磯山恵一)

## 『平成 22 年度自衛消防隊消防操法技術訓練会を終えて』

平成 22 年 10 月 20 日、こどもの国に於いて横浜市青葉区の自衛消防隊消防操法技術訓練会が行われました。当院は毎年、屋内消火栓操法の女子の部に参加しており、大会の約 1 ヶ月半前から青葉消防署の方々の御指導のもと、体育会系の厳しい練習を重ね、大会に臨んでいます。今年の隊員は、薬剤師、検査技師、事務から各 1 名ずつと看護師 2 名が選出されました。隊員は皆、日頃運動とは無縁の生活を送っており、練習初日からの全力疾走やホース巻き訓練では、1 番員 2 番員を担当した隊員は激しい筋肉痛に見舞われつつも、根性で練習に励みました。結果は 1 位とは数秒差で、惜しくも 2 位。残念ではありましたが、5 人の中での結束力やチームワークで、優勝目指して頑張った結果であり満足しています。この経験を通じ屋内消火栓の使い方や心構えはバッチリマスターしましたので、今後の火災時の戦力として少しでも役立てたいと思います。またこの練習期間、何度も練習のために職場を離れることとなり、それぞれの部署の皆様にはご協力を頂き、感謝しています。有り難うございました。(看護部 大平久子)



肌寒い日が続き、インフルエンザが流行するシーズンに入りました。  
昨年、新型インフルエンザ(H1N1)が流行し、国民の1/4～1/3が罹患したとも言われています。  
今回は、インフルエンザウイルス、ワクチン、予防について簡単にお話ししましょう。



## <インフルエンザウイルス>

### 豆知識

昨年流行したインフルエンザは新型インフルエンザ(H1N1)ですが、毎冬流行するA型(H1N1亜型のAソ連(ロシア)型、H3N2亜型のA香港型)やB型のインフルエンザのことを「季節性インフルエンザ」と呼びます。しかし、一般的な医療現場ではA型インフルエンザとB型インフルエンザの区別しかできません。昨年あれほど、新型インフルエンザと大騒ぎになりましたが、病状悪化や死亡率などもこれまでのA型、B型のインフルエンザとは変わりませんので現在は、通常のA型あるいは、B型のインフルエンザとして医療現場でも対応しています。

### 症状

1～4日間の潜伏期間を経て、発熱(38℃以上の高熱)、咳、咽頭痛、鼻汁・鼻閉等の急性呼吸器症状、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現します。

## <インフルエンザワクチン>

毎年、WHOの専門委員会が、流行しそうな「ウイルス株」を予測します。  
今シーズンの季節性インフルエンザワクチンはA/H3N2香港型・A/H1N1(新型)・B型の3価混合ワクチンですので、新型インフルエンザや従来の季節性インフルエンザにも効果があると言われています。  
インフルエンザワクチンは、年齢によって異なりますが70～80%発症を予防すると言われています。しかし、発症予防よりもインフルエンザ脳症や肺炎などの重症化を防ぐことが主な目的となっており、WHOや厚労省でもインフルエンザワクチンの接種が推奨されています。

## <インフルエンザ予防>

### ワクチン接種

インフルエンザワクチンは効果が得られるまで2～4週間と言われていますので流行前に接種しましょう。  
※卵アレルギーのある方やワクチン接種で具合が悪くなった方は、医師にご相談ください。

### 手洗いやうがい、マスク着用

インフルエンザウイルスが手やのどに付くのを防ぎます。また、手についたウイルスが鼻を擦るなどして感染すると言われていますので、マスクを着用するだけでなく手洗いも大切です。

### 加湿

インフルエンザウイルスは湿度を嫌います。室内では、湿度が保てるように気をつけましょう。

## 公開講座を開催しました

去る平成22年10月9日(土)、藤が丘病院臨床講堂に於いて公開講座が行われました。  
 今回は「検査の基礎知識～内視鏡・レントゲン～」と題し、内科消化器 吉本和仁医師、内科呼吸器 土屋裕医師よりそれぞれ講演があり、あいにくの雨でしたが約45名の参加がありました。  
 藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 公開講座は年2回、春期・秋期に開催しております。どなたでも参加頂ける講座ですので、次回の参加をお待ちしております。



## 医療安全推進週間（平成22年11月21日～平成22年11月27日）について



厚生労働省では、医療安全対策に関し、医療関係者の意識向上、医療機関、関係団体等における組織的取組の促進等を図ることを目的とし、平成13年度から11月25日を含む1週間を『医療安全推進週間』と位置づけ、医療安全対策の推進を図っています。  
 そこで、平成22年11月21日～平成22年11月27日を藤が丘病院とリハビリテーション病院の医療安全推進週間とし、医療関係者の意識向上、組織的取組として医療安全に関する標語を入れたポスターを院内で募集し投票をしてもらいました。  
 当院で、どのポスターが当選したかは、次号にて掲載いたします！



## クリスマスコンサートを開催します

平成22年12月18日(土)午後3時より、湘南スウィングシスターズによるクリスマスコンサートを開催いたします。皆様に親しみのある曲を演奏して頂けるとのことですので、お時間のある方は御来院ください。



演奏曲：きよしこの夜・ママがサンタにキスをした・星に願いを・赤鼻のトナカイ・・・他  
 場所：昭和大学藤が丘リハビリテーション病院入口ホール



【診療統計】2010年9月～10月( )内は1日平均

	藤が丘		リハビリ	
	9月	10月	9月	10月
外来患者数	34,641人 (1,443.4人)	35,144人 (1,405.8人)	6,544人 (272.7人)	7,098人 (283.9人)
入院患者数	14,599人 (486.6人)	15,554人 (501.7人)	5,377人 (179.2人)	5,549人 (179.0人)

### 編集後記

いつの間にか季節は秋から冬へと変化を遂げようとしています。2か月前のあの暑さはどこへやら…、忘れてしまいそうです。でも、先月みちのく辺りの温泉を訪ねてみたら、夏の厳しい暑さのせいで、紅葉になる前に枯れてしまう木々が多いと地元の方が話していました。やはり、酷暑の影響はしっかりと残されていたんですね。皆様は体調を壊していませんか？

広報委員 伊藤久美

広報委員 三邊武幸 末木博彦 吉村吾志夫  
 谷山松雄 扇谷浩史 池田裕一 田口清 高橋良昌  
 上ノ宮彰 西山謙一 岩田香苗 吉原利栄 伊藤久美  
 高橋良治 庄司博 佐藤薫 川西丈巳 渡邊哲  
 太田麻美 (順不同)